

一言ご挨拶を申し上げます。

第83期棋聖戦の第3局が江津市で開催されることをお喜び申し上げます。また、ご来賓の皆様、各地からお集まりの皆様を心から歓迎申し上げます。

将棋は、島根でも、とても盛んであります。

5月には、島根在住の里見香奈さんが史上最年少での女流四冠の快挙を成し遂げられるなど、将棋への関心も益々高まってきています。また、県内からは、国内最古となる室町時代の将棋盤も出土しています。

今回、伝統と格式を誇るタイトル戦である棋聖戦が島根で開催されることは、誠に喜ばしく、また大変意義深いことです。

羽生善治棋聖は、現在、大山康晴十五世名人と並び、タイトル獲得数が歴代最多の通算80期であり、本日は新記録達成がかかる大一番。

対する中村太地 六段は、昨年度全ての棋士の中で最高勝率を上げた新進気鋭の24歳で、今回は初のタイトル挑戦。

将棋ファンに限らず、全国から大いに注目を集める一戦であります。

この島根の地から、歴史に残る名局が生まれることを期待しております。

さて、今年は、ここ島根を舞台とした神話が数多く登場する「古事記」が編纂されてから1300年の節目の年です。県では、これを契機に島根の魅力を全国に発信するため「神々の国しまね」プロジェクトを進めています。

そのメインイベントとなる「神話博しまね」を、今月21日から11月11日まで出雲大社周辺を主会場として開催します。また、江津市では「全国万葉フェスティバル」を9月1日、2日に開催します。皆様方には、ぜひ古代ロマンあふれる島根を満喫していただければ幸いです。

終わりに、羽生善治 棋聖、中村太地 六段 のご健闘をお祈り申し上げますとともに、皆様のご健勝とご発展を祈念いたしまして、挨拶といたします。